
The Ruins Of The Lost Kingdom Online 小説版

辰音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The Ruins Of The Lost Kingdom
Online 小説版

【Nコード】

N2394P

【作者名】

辰音

【あらすじ】

rolloのNOVキャラが戦う

WORLD OF WHITE part 1

『そこ』は白かった。

真っ白だった。

何も見えない。何も無い。

あたしはなんでここにいるの？

ここはどこ？

あたしはどうすればいいの？

「進め」。声がして、リンジーは跳び上がった。

「お前と同じことになってる者が他にもいる。その者達と一緒に魔物を倒してこい。」

声があった。

「他のものって？魔物って？」リンジーが聞いた。

「お前と同類のものだ。魔物は、港町センレーグのハンターユニオンへ行けばわかる。」

「センレーグのハンターユニオン」リンジーが復唱した。

「そうだ。そこにほかの者もいるだろう。」声が言った。

「わかりました。今度はいつ会えると思いますか？」

「ハンターユニオンへ行った後に酒場へ行けばまた会えるさ。」

「はい。」

「では、進んでいけ。」

「はい。また会えるように願ってます。」

声は答えなかった。

リンジーは進んでいった。

WORLD OF WHITE part 2

『そこ』は白かった。

真っ白だった。

何も見えない。何も無い。

あたしはなんでここにいるの？

ここはどこ？

あたしはどうすればいいの？

「進め」。声がして、マルルは跳び上がった。

「お前と同じことになってる者が他にもいる。その者達と一緒に魔物を倒してこい。」

声と言った。

「他のもの？魔物？」マルルが聞いた。

「お前と同類のものだ。魔物は、港町センレーグのハンターユニオンへ行けばわかる。」

「センレーグのハンターユニオン」マルルが復唱した。

「そうだ。そこにほかの者もいるだろう。」声が言った。

「わかりました。今度はいつ会えますか？」

「ハンターユニオンへ行った後に酒場へ行けばまた会えるさ。」

「はい。」

「では、進んでいけ。」

「はい。また会えるように。」

声は答えなかった。

マルルは進んでいった。

WORLD OF WHITE part 3

『そこ』は白かった。
真っ白だった。

何も見えない。何も無い。

俺は何故ここにいるのだ？
ここはどこだ？

俺はどうすればいいのだ？

「進め」。声がして、デヴィスは跳び上がった。

「お前と同じことになってる者が他にもいる。その者達と一緒に魔物を倒してこい。」

声と言った。

「他のものとは？魔物とは？」デヴィスが聞いた。

「お前と同類のものだ。魔物は、港町センレーグのハンターユニオンへ行けばわかる。」

「センレーグのハンターユニオン」デヴィスが復唱した。

「そうだ。そこにほかの者もいるだろう。」声が言った。

「わかりました。今度はいつ会えますか？」

「ハンターユニオンへ行った後に酒場へ行けばまた会えるさ。」

「わかりました。」

「では、進んでいけ。」

「はい。また会えることを望んでいます。」

声は答えなかった。

デヴィスは進んでいった。

WORLD OF WHITE part 4

サーシャ

『そこ』は白かった。

真っ白だった。

何も見えない。何も無い。

私はなんでここにいるの？

ここはどこ？

私はどうすればいいの？

「進め」。声がして、サーシャは跳び上がった。

「お前と同じことになってる者が他にもいる。その者達と一緒に魔物を倒してこい。」

声があった。

「他のもの？魔物？」サーシャが聞いた。

「お前と同類のものだ。魔物は、港町センレーグのハンターユニオンへ行けばわかる。」

「センレーグのハンターユニオン」サーシャが復唱した。

「そうだ。そこにほかの者もいるだろう。」声が言った。

「わかりました。今度はいつ会えるのですか？」

「ハンターユニオンへ行った後に酒場へ行けばまた会えるさ。」

「はい。」

「では、進んでいけ。」

「はい。また会えますように。」

声は答えなかった。

サーシャは進んでいった。

WORLD OF WHITE part 5

『そこ』は白かった。
真っ白だった。

何も見えない。何も無い。

僕はなんでここにいるの？
ここはどこ？

僕はどうすればいいの？

「進め」。声がして、ヴェルンは跳び上がった。

「お前と同じことになってる者が他にもいる。その者達と一緒に魔物を倒してこい。」

声と言った。

「他のものとはなんですか？魔物とはなんですか？」ヴェルンが聞いた。

「お前と同類のものだ。魔物は、港町センレーグのハンターユニオンへ行けばわかる。」

「センレーグのハンターユニオン」ヴェルンが復唱した。

「そうだ。そこにほかの者もいるだろう。」声が言った。

「わかりました。今度はいつ会えますか？」

「ハンターユニオンへ行った後に酒場へ行けばまた会えるさ。」

「はい。」

「では、進んでいけ。」

「はい。また会えるように。」

声は答えなかった。

ヴェルンは進んでいった。

WORLD OF WHITE part 6

『そこ』は白かった。

真っ白だった。

何も見えない。何も無い。

俺はなんでここにいるの？

ここはどこ？

俺はどうすればいいの？

「進め」。声がして、ザスターは跳び上がった。

「お前と同じことになってる者が他にもいる。その者達と一緒に魔物を倒してこい。」

声と言った。

「他のものとはなんだ？魔物とはなんだ？」ザスターが聞いた。

「お前と同類のものだ。魔物は、港町センレーグのハンターユニオンへ行けばわかる。」

「センレーグのハンターユニオン」ザスターが復唱した。

「そうだ。そこにほかの者もいるだろう。」声が言った。

「わかった。今度はいつ会える？」

「ハンターユニオンへ行った後に酒場へ行けばまた会えるさ。」

「わかった。」

「では、進んでいけ。」

「わかった。また会えることを願う。」

声は答えなかった。

ザスターは進んでいった。

船の上で

波が跳ねる音を聞きながら、4人は緊張していた。
後の2人は、（マルルとリンジーだが）遊んでいた。

ヴェルン）楽しそうだなあ

サーシャ）そうね

デヴィス）ところで、俺たちはこれからどうすればいいんだ？

マルル）センレーグに着くまで遊んでればいいんじゃない？

リンジー）そうだよな。こんなに楽しく遊んだの、久しぶりだもん

ザスター）ふん・・・

マルル）ふん・・・って、それだけ？

その時、船長らしき人物が、いきなり叫んだ。

船長）おい、魔物が現れたぞ！船の中だ！

その言葉で、全員が振り返った。

船長）ここでお前たちの力を試すチャンスだ！倒してみろ！1人1体だ！

マルル）遊んでたのになあ・・・まあこつちも楽しそうだからいいかな。

ヴェルン）まで、お前ら！

ザスター）なんだ？止めるなよ。

ヴェルン）ちゃんと敵の弱点を見抜かなきゃ！

ザスター）そうか。なら、どんな弱点を持っている。

ヴェルン）敵を見て、確かめてみる。

ヴェルンが敵を見に行つた後、
リンジー）あいつ、逃げたんじゃない？
サーシャ）いくらなんでもそんな弱虫じゃないでしょう。

ヴェルンが帰ってきた。

デヴィス）どうだった？

ヴェルン）ゴブリンだ。たしか水が弱点だな。

ザスター）そうか。この中で水の加護を受けているものは？

誰も答えなかった。

ザスター）そうか、なら先制攻撃だ。

マルル）わかったあ。

戦いが始まった。

ザスター）おい、ちつこいの！足を引つ張るなよ！

マルル）うるさーい！そつちこそちゃんと戦え！

戦いが始まって数分後、

リンジー）こいつら、全然体力が減ってないよ！

ヴェルン）なんだと！？

その通りだった。

船長）そりゃあ、そうさ！なんたつて訓練用ゴブリンだからな！

マルル）え・・・じゃあ、戦っても無意味ってこと？

船長）まあ、そうだな。

サーシャ）なんだ。

船長）まあ、俺はお前たちの戦いぶりを見てみたかったんだ。それで
でだいたい職業がわかる。

マルル）職業？

船長）そう、職業だ。まあ今はいい。センレーグ側の人間が教えてくれるだろう。それ、着くぞ！

6人は船から降りた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2394p/>

The Ruins Of The Lost Kingdom Online 小説版

2010年12月9日06時29分発行